

事業評価調書

◎基本情報

年度	2017	会計コード	10	一般会計	事業コード	21982	
事業名	国際交流関係団体補助金						
評価担当課	所属名	総務局国際部交流課					
	課長名	岩立	担当者名	森	電話番号	211-2032	
施策名	主	5-1世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開					
	副						
アクションプラン	○ 対象 ● 対象外		戦略ビジョン	○ 対象 ● 対象外			
事業の性質	● 経常経費 ○ 臨時的経費						
	○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費						
事業内容	実施形態	○ 直営 ○ 一部委託 ○ 全部委託 ○ 補助・助成 ● その他					
	取組内容 (何を する)	国際交流に関係する下記団体に対して補助金を支出する。 ・北海道朝鮮学園 ・北海道インターナショナルスクール ・北海道ロシア極東交流事業実行委員会					
	目的 (何を どうす るため に)	長期	本市の国際化を広く推進するため。				
		短期	外国人学校に通う子どもたちの教育環境の整備を支援するとともに、市民の国際感覚の醸成や多文化共生社会の実現を推進するため。				
	実施結果	以下のとおり補助金を支出した。 ・北海道朝鮮学園補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道インターナショナルスクール補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道ロシア極東交流事業補助金(渡航費等) 250千円 ・札幌市ポートランド市体操国際交流事業補助金(渡航費等) 160千円 ・札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業補助金(渡航費等) 160千円					
事業実施における工夫点	補助対象経費の精査を慎重かつ厳格に行っている。						
対象者	国際交流関係団体			開始	年度	終了	年度
関連法令・ 条例・要綱 等	札幌市補助金等の事務取扱に関する規程						
他都市 の状況	外国人学校への補助金については、各自治体が判断し支出している。						

◎事業費

(単位:千円)

	28年度決算	29年度予算	29年度決算	30年度予算
事業費	3,850	3,850	2,050	3,850
うち特定財源	0	0	0	0
人工	0.2	0.2	0.2	0.2
人件費	1,420	1,440	1,440	1,420
計(事業費+人件費)	5,270	5,290	3,490	5,270
事業費の内訳	29決算	・北海道朝鮮学園補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道インターナショナルスクール補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道ロシア極東交流事業補助金(渡航費等) 250千円 ・札幌市ポートランド市体操国際交流事業補助金(渡航費等) 160千円 ・札幌市立高校生・ポートランド市グラント高校生交流事業補助金(渡航費等) 160千円		
	30予算	・北海道朝鮮学園補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道インターナショナルスクール補助金(教材教具費等) 1,800千円 ・北海道ロシア極東交流事業補助金 250千円		

◎検証(振り返り)

活動指標1	指標名	市内外国人学校数							
	28年度実績	29年度予定	29年度実績	30年度予定					
	2	2	2						
活動指標2	指標名	北海道ロシア極東交流事業実施回数							
	28年度実績	29年度予定	29年度実績	30年度予定					
	2	2	2						
成果指標1	指標名	外国人学校在籍生徒数							
	28年度実績	29年度目標	29年度実績	30年度目標					
	250	250	238						
成果指標2	指標名	北海道ロシア極東交流事業(青少年交流)参加者数							
	28年度実績	29年度目標	29年度実績	30年度目標					
	130	140	122						
項目	判定	理由							
事業の成果 (目的をどの程度達成できたか)	A	外国人学校に通う子どもたちの教育環境の整備を支援するとともに、団体の事業実施を補助することで市民の国際感覚の醸成や多文化共生社会の実現を推進する一助となった。							
事業規模 (事業ボリュームは適切か)	A	外国人学校への補助金については、教材教具費等を両校同額で支出しており、他都市においても同様の教材教具費等補助を実施している。北海道ロシア極東交流事業については、補助金額の上限は平成24年度から250千円としているが、企業からの協賛金や北海道からの補助金等の収入も確保して、事業を実施することができている。ポートランド市関係の補助金については、市民レベル交流の重要性に鑑み、渡航費の一部補助を行ったものである。							
事業の実施手法 (事業の効率性、実施主体は適切か)	A	各団体とも申請に基づき、事業内容等を適宜確認した上で支出している。							
対象者の満足度 (対象者のニーズに込えているか)	A	いずれも補助金の申請額と同額を支出している。							
市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外 市民参加結果への対応 ☐ 回答 ☐ 反映								
今後の改善点	引き続き補助対象経費の精査(現地調査・領収書等の検査)を慎重かつ厳格に行っていく。								
前回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業								
今年度取り組んだ見直し内容	市民レベル交流2事業について、事業の目的に適合すると認め、新たに補助を行った。		見直し効果額 (前年度)	0	千円				
今回の評価	● A ○ B ○ C ○ 評価省略対象事業								
評価の理由	○外国人学校 子どもたちの教育環境の整備を安定的に行うとともに、多文化共生社会の推進に寄与しているため。 ○交流事業 青少年の国際感覚の醸成、相互理解を深める交流の機会等を設け、本市の国際化推進に向けた環境づくりに貢献しているため。								
次年度の取組の方向性・改善内容	事業内容	○ 改善 ● 現状維持 ○ 休止・廃止							
		北海道朝鮮学園、北海道インターナショナルスクール、北海道ロシア極東交流事業実行委員会をはじめ、事業目的に適合すると判断した場合は補助を実施する。							
	予算	○ 拡充 ● 現状維持 ○ 縮小 ○ その他							
		国際交流に関係する団体への補助金を継続する。		見直し効果額	0 千円				